

毛猛連山 仕入沢～二俣ノ沢下降

手嶋

【日時】 2007年9月1日～2日

【メンバー】 手嶋（L）、鈴木、木下、田辺、後藤、山川

仕入沢は以前から行きたいところだった。大物ではないが、ちょっと気になる沢。はたしてこの沢は、大きくはないものの越後のエッセンス、美しさと厳しさいやらしさが凝縮された、期待にそぐわぬ素晴らしい沢だった。強力な木下さんが加わってくれたものの、人数が男女半々で6名と多く、結果随分と時間がかかってしまったが、自分としては久々に「越後の沢」を遡ったという感じだった。

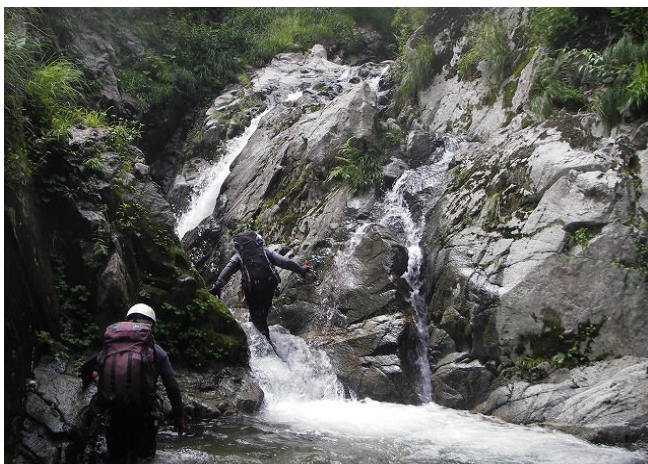
9月2日

天気予報とは裏腹に、朝から晴れる予感を感じる天気だ。仕入沢の入渓地点はトンネルが切れたところで、シャッターもなく右側に泣沢出口のような大きな広場が広がっていた。車を置いて身づくろいして、さあ出発。このあたりから見る仕入沢は、兩岸が険しいものの、意外に大きな穏やかに広がる谷に見える。

右岸の踏み跡を行き、堰堤の上から入渓。すぐにもう1つ堰堤を巻く。少しの間は穏やかな流れ。正直思っていたよりも規模の大きな谷と感じた。すぐに途切れることのない見せ場が始まった。

2mクラスの滝を手始めに数mの小さめの滝が続く。いずれも登れるが釜につかりながらのところが多し。どうもこの沢は意外にもかなりお水系の沢のようだ。晴れて暑いので苦にならない。2段6mの滝は突破不可能。右岸から高巻く。

次のゴルジュの滝は6mを一度登ってみるものの、次の2m滝が突破できず、戻って右側の岩場からの高巻き。この先はさらに狭いゴルジュの中に滝が続く。いずれも登れるので楽しい。いやいや実に越後らしいなかなか厳しくも楽しい沢だ。今回は木下さんが全て突破してくれた。



5mの滝は右から高巻いて懸垂。そして降りるとさらにゴルジュが続く。人数が多いせいか時間がかなりかかっている。本来ならば今日中に下降の沢の途中まで行きたいところだったが、とてもとても。逆にそろそろテン場を考えないといけない時間になってきた。しかしこの狭い谷筋ではとても望むべくもなさそうだ。

ところが狭いゴルジュの最後の3mの滝を右から高巻いたすぐ先で、谷は突如広大に開けたのであった。この変化は驚きであった。左側に素晴らしいテン場がある。この先も穏やかな流れが続く。この範囲内でできるだけ先に行こうということで先に行くが、結局977mの沢が入り込むところ、右手が広大なイタドリの原になっており、今日はここまでにすることにした。偵察によると広い谷筋は二俣先まで続いていた。

イタドリを広く切り倒し、最高のテン場が出現。すぐ前に焚き火スペースも確保でき、今宵は素晴らしいシチュエーションで宴会を楽しむことができた。私も久しぶりに気持ちよく歌う。ゲゲゲの鬼太郎、うさぎのダンスといった名曲の数々が夜の谷に流れる。

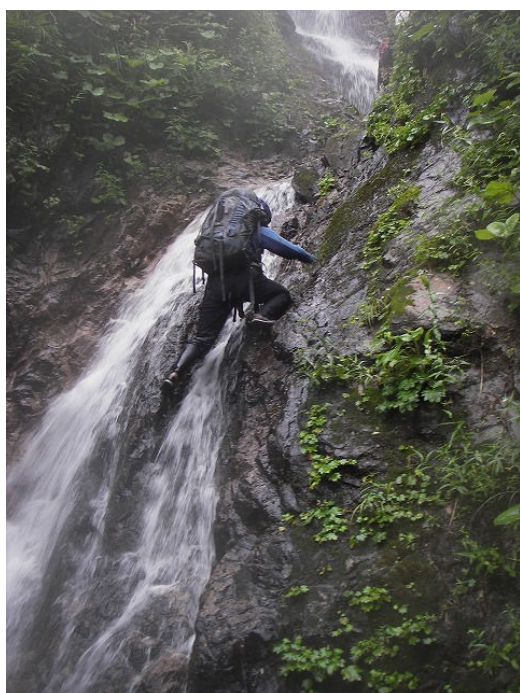
9月2日

6時に出発。今日も天気は良さそうだ。二俣先に大きな滝が両門状にかかっている。行く手は左の滝だ。この多段の20m滝は容易に登れるが、その先の2mクラスの滝が難しそうなので、左からそのまま巻く。

もうこの先は大したものはないだろう・・・、という期待は甘かった。ここから先滝が2～3続くと、沢は再びゴルジュ状を呈した。その中に数mクラスの滝が次々に現れる。両岸草付き、スパッと立っていて高巻くのも大変そうだ。

行く手をふさぐ2段20mの滝は上段を木下さんがザイルをつけてリード。立っていて結構もろく悪かった。しかしまだまだ滝は終わらない。三俣状のところは、ゴルジュの中に左右の草付きから20mクラスの滝が落ちている。突破は難しそう。ここは一番易いような真ん中の滝を登って、左俣へ渡ることにする。

草付きと灌木をトラバースして左俣へ。ゴルジュと滝が続いてすぐには降りられないので、しばらく高巻いて様子を見て降りた。沢は随分小さくなっているが、まだまだいやらしい滝は続く。最後は結構立った泥壁から灌木帯



に入り少々ヤブこぎ、稜線に出て終了となった。時すでに11時。ここからもう1本沢を下降しないといけない。

下降はしばらく尾根に取った。仕入沢から見て、あんな滝が続いたら明るいうちに降りられない。2つの沢の間の尾根を可能な限り下り、穏やかな右手の沢に降り立った。仕入沢とは随分様子が異なる沢だ。

稜友の記録によると、15mクラスの滝があるという。ナメ状の8mほどの滝に続き、はたして目の前に空間が現れ、大きな滝が落ちていた。ここはもう躊躇せずに懸垂。6人いるので時間はかかるが、簡単に突破することができた。

この先もところどころに滝が現れる。これらは



時に苦勞するものもあったが、主にクライムダウンで下ることができた。仕入沢とはうってかわり、概して穏やかだ。

最後のゴルジュ状を右手から高巻いて降りると沢は穏やかになる。沢が大きく右に左に曲がり、地図上の林道終点のあたりに古い取水口があった。少し下ってヤブをこいで林道に乗り上げ、安全地帯に到着することができた。駐車スペースはすぐ先であった。

地図上では小さい沢であるがなかなか。お勧めです。下降ルートはいくつか取れます。今回のコースタイムはおそらく強力3人パーティーの倍くらいかかっていると思う。日帰りは可能。

【グレード】 3級～3級上

【地図】 奥只見湖

【行程】 9/1 駐車地点 (8:50) ～977mビバークポイント (14:10)

9/2 BP (6:05) ～稜線 (11:00) ～二俣ノ沢上部 (12:45) ～林道 (15:40)

～駐車地点 (15:55)